



バングラーデシュに生きて

私たちにあまり馴染みのない南アジアの国、
バングラーデシュを紹介します。

vol.2



【女性達の自立】

1971年、現在のパキスタンから独立を果たしたバングラーデシュには私たちが想像も出来ないような貧しい女性がたくさんいます。彼女達は1日に1度、粗末な食事をするのが精一杯で、ほとんどの女性は文字の読み書きができません。

農村に生まれたシファド(40歳)もかつて、そのような女性の一人でした。彼女は幼い頃から家事や子守りに忙しく、二度も学校に行ったことはありません。又、信じられないでしょうが31歳になるまでお金を触ったこともありませんでした。

ある日シファドは、近所に住む友人女性からグラミン銀行のメンバーにならないかと誘われました。しかしシファドは、字も読めない、計算もできない貧

しい自分が銀行からお金を借りる事ができるなんて信じられず、友人が自分をからかっているのだと悲しくなりました。しかしグラミン銀行は、貧しい女性のための銀行だったので、シファドも無事2000タカ(日本円で約2,700円)の融資を受けることができました。そのお金で彼女は乳牛を1頭購入し、牛乳の販売を始めました。次に儲かったお金で土地を買ひ70本のバナナの苗木を植えました。

今、彼女の家族は1日に3度の食事をとり、時々肉や魚も食べることが出来ます。そして、子供達に季節ごとのブラウスを買ってあげることも出来るようになった。つづく)



グラミン銀行の支部集会の様子
(2013年3月筆者撮影)



ダッカにあるグラミン銀行本部
(2014年3月筆者撮影)

鶴田 素子さん

八代市のローズマリー紅茶店オーナー。50歳で大学院に再入学し、開発経済学を専攻。途上国の貧困削減のためフェアトレードを推進する。

ご感想お待ちしております!

info@uki-pre.net